

# 第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 ( 概 要 )

第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会において、北海道の木材需給の状況など活発な意見交換が行われました。主な意見につきましては「3」のとおりです。

## 1. 日時

平成25年7月23日（火曜日） 14時00分～16時00分

## 2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

## 3. 主な意見

- 供給調整は、市場等への丸太の供給時期の調整や立木販売箇所の搬出期間の延長等による対応が考えられる。
- 丸太の供給時期の調整に当たっては、請負事業者の協力、作業員の雇用問題、予定事業量の確保、追加事業の予算確保、供給調整をする時期などの問題を整理することが必要。
- 木材を安定的に供給するためにも、若手技術者等の育成が重要ではないか。
- 木材供給及び価格の安定化の観点からも、「国有林材の安定供給システムによる販売」の数量確保が重要。
- 外材と道産材の需要量の差は価格差と考えられ、特に輸送コストが大きく影響。そのためにもシステム販売のAタイプ（直送方式）の定着化が必要ではないか。
- 間伐を促進させるためにも原材料の出口対策として、木質バイオマス燃料などの利用に期待するとともに、国有林材の安定供給が重要となってくる。
- 価格解析等の資料は、トドマツとエゾマツを区分けした方が良いのではないか。
- 今後、生産量の中核となるトドマツの製品開発を進める必要がある。
- あえて供給調整まで行わないためにも、短期的ではなく長期的な木材の安定供給が重要。

## 4. まとめ

今の道内の木材需給状況や各委員の発言をまとめると、現時点で今すぐ国有林材の供給調整を行う必要性はないと考える。

次回委員会においては、木材の安定供給に不可欠な人材育成や路網整備の取組などについても話題とする。